

VISION  
IDEA



2030

# 「もくじ」



## 第一話

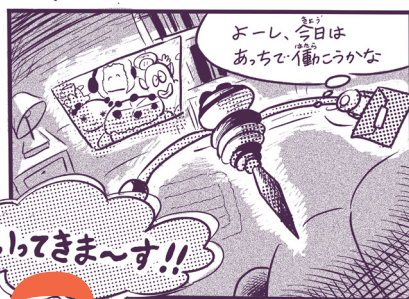
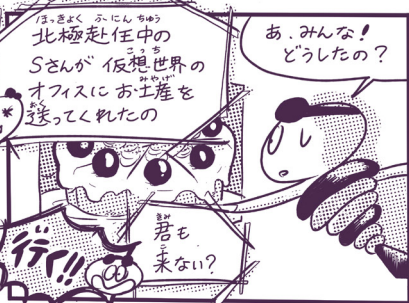
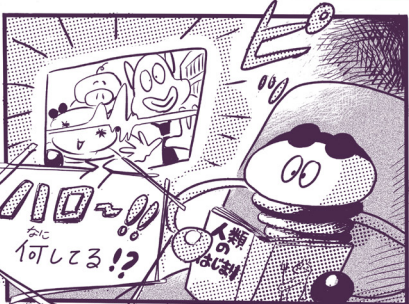
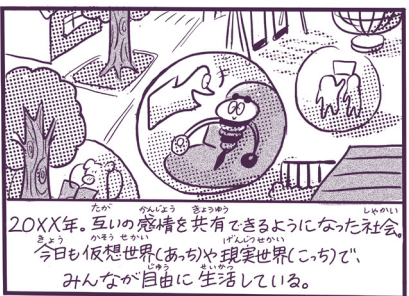
いろんな  
「ワタシ」が  
私を支える

## 第一話

## 第二話

すべてが溶け合う社会で、  
自分が自分であるために

その「無関心」は、  
やさしさ  
かもしれない



# 第一話



## いろいろな 「ワタシ」が 私を支える

人はもともと、さまざまな好みや能力をもっているのに、日常生活のなかでは、なかなか自由に発揮できない。家庭、会社、公共の場——その時々で求められるふるまいに、自分自身をあわせてしまう。もしも「場」のルールにしばられず、「いろいろな自分」を自由に外へ出せるようになったら、もっとのびのびと力を発揮できるのかも。

バーチャルな自分は「別の人」ではなく、そのどれもが自分自身。いろんな場所でいきいきと活躍する自分が、他の自分を支えてくれる。

リアルな場所の関係性はかたまりがちで、自分の意見も自然と他の人と同じようなものになってしまったり。ちょっと変わった意見は、なんとなく避けられてしまったり。

そんなとき、みんながあえて想像上の立場やバーチャルな姿になりきってふるまってみたら？

リアルな場所の関係性とは違う一面が見えて、これまでは出てこなかったアンテナが発揮されるかも。

人がこれまで変えるのが難しいと思っていた年齢や性別、容姿などを、もしも自由に選べるようになったら。

これまでは考えられなかった人とのつながりが生まれそうだ。



### 「研究テーマ」

- 豊かな働き方のかたち
- # 雇用されない働き方
- # ゲームフィクションな労働の実践
- # モチベーションのセンシング
- # 目的・課題よりも自分の意志を尊重した選択をする(1)(8)
- 現実と拡張現実を融合する衣食住
- # 社内での暗号資産の運用
- # 現実を超えた経済圏の拡張
- # 存在する自分と居場所の選択肢を増やす(4)
- # 拡張現実での自己実現(2)

## その「無関心」は、 やさしさ かもしれない

人助けをしたいのに、ためらってしまふときがある。かえって迷惑になるかもしれないし、一方的に「助けが必要の人」と考えてしまうのは、ちょっと失礼かもしれない。そもそも、他人にどこまで立ち入っていいのかな。ひとつの行動がお節介なときもあるし、手助けになるときもある。

でも、そう考えていった先には、誰も誰からも助けてもらえない社会になってしまうかもしれない。そんな場所には、まさに「冷たい無関心」が広がっている。みんなが自分のことしか助けなくなってしまう。

お節介や失礼のおそれをこえて、他の人に尽くすにはどうしたらいいのだろう。どうやったら、手助けや関心を適切な距離感でコントロールできるのだろう。

もしも、言い出しにくい感情や距離感が見えるようになったら、「今あなたに助けてほしい」とか「今は放っておいてほしい」とか——そんな微妙なニュアンスを互いに察しあえるような技術が生まれたら。みんなが「あたたかい無関心」をもって、他人とちょうどいい距離感を保てるかもしれない。



### 「研究テーマ」

- 最適な距離感のデザインとそのつなぎ方
- # DAOの立ち上げとDAO間のつながり
- # 人間・動植物・地球環境が対等につながるコミュニティ
- # 心地よい通信サービス体験
- # 人間・空間・時間を超えるコミュニケーション
- # 気分の可視化で保つ最適な距離感(7)
- # 文理融合で考察する記号を超えた伝達方法(1)(4)(5)
- # 価値観や感性のテンプレート作成(4)(5)



# すべてが溶け合う社会で、 自分が自分であるために

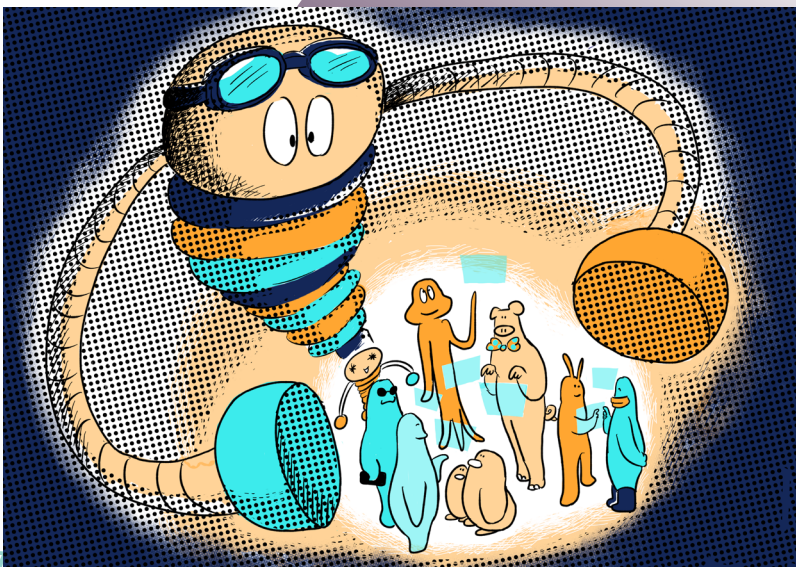
感情が見えるようになり、感性が共有できるようになった未来の社会。人だけではなく、モノや環境ともつながっていく。人と人との仲たがいは解消され、仲間を大切にすると同じように、地球が感じる痛みにも耳を傾けるようになる。

けれど、感情が溶け合う社会において、自分と他人との境界線はどこに引かれるのだろうか。人に言えない秘密をどうやって隠しておく？ 自分のアイデアの権利や貢献度をどう表す？ 誰かに自分の責任を背負ってもらうことはできるのかな。

「自分は自分、他人は他人」という「個人」の概念があいまいになってしまったら、「自分が自分であること」はどうやって証明すればいいのだろう。

すべてがつながる社会では、むしろ「つながらなさ」こそが大事になったり。すべてが先回りされる世界では、「遠回り」こそが生きがいになったり。

今とは異なる価値観が前提となった「感性社会」は、ネガティブに考えられている無駄なことこそが、ポジティブに求められるものになっていくのかもしれない。



## 「研究テーマ」

- 感性社会のなかの信頼と「ワタシ」の確立
- # 信頼のアルゴリズム
- # 自己の確立とアイデンティティの定義
- # 情報の制御権とリスクの可視化
- # Open > Trust
- # 情報の可視化と安全性のバランス(2)
- # 感覚、感情、感動を共有するシステム(4)

2022

2023~2025

2025~2030

2030~

自社内での新しい働き方  
の実証実験

拡張現実で仕事ができる  
サービス・事業をローンチ

パートナー候補：  
人材紹介会社 / 暗号資産交換業者 /  
コミュニケーションツール開発会社 等

オフィスを構える  
企業が激減

仮想現実余暇を  
求める人々が増加

多様な暮らし方  
の実証実験

パートナー候補：  
住宅メーカー / 観光業界 等

VISION IDEA (1)

自分が活躍できる次元や  
場所を選べる社会の実現

第一話 いろんな「ワタシ」が私を支える

現実と拡張現実の主従関係  
が曖昧になる  
#パラレルワーク、#マイクロ  
ワーク

RESEARCH THEME

豊かな働き方のかたち

暮らし方、働き方のモデル  
ケースが複数生まれる  
#暮らしの中でのDAOの活用

RESEARCH THEME

現実と拡張現実を融合する  
衣食住

情報にアクセスする手段や  
方法の選択肢が増える

デジタルデバイドの問題  
と向き合う

パートナー候補：  
自治体 / 人材紹介・派遣会社 等

「無関心」領域へのタッチ  
ポイントの形成

パートナー候補：  
心理学研究者 / マジシャン、  
ギャンブラー 等

デジタル弱者について  
の解像度を上げる

顕在化していない課題  
を探る

心的テンプレートの作成

一見必要のない情報にアクセス  
する人が増える  
#中間層の意識の変化

一人ひとりの価値観や  
思考を把握するための  
解析システムの開発

パートナー候補：  
感性学研究者 / 文化人類学研究者 /  
アーティスト・表現者 等

VISION IDEA (2)

あたたかい無関心  
で共鳴する社会の  
創造

第二話 その「無関心」は、  
やさしさかもしれない

「デジタル弱者」という言葉  
が消える  
#優劣がない多様なアンテナ像

RESEARCH THEME

最適な距離感のデザインと  
そのつなぎ方

他者に伝わりにくい感情  
(痛み等) を表現する方法  
の検討

地球環境の感情化

他者の感覚や感情を伝送  
する技術の開発

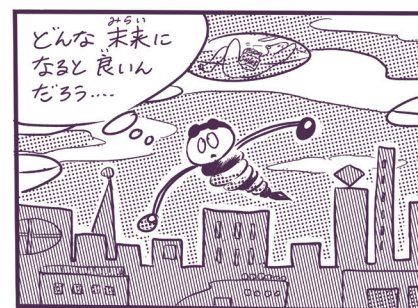
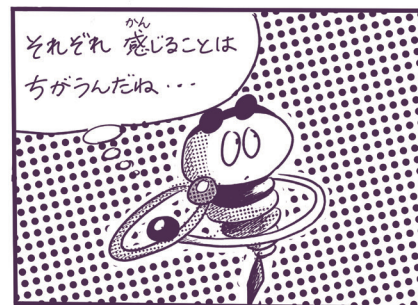
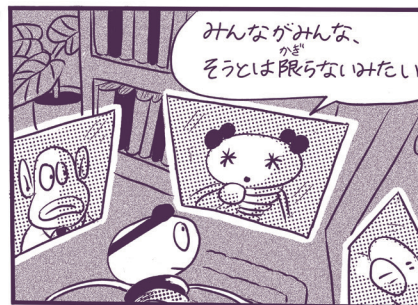
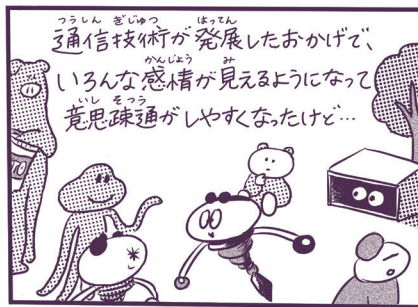
他者の多様な感情に対し、自分  
の行動の選択肢が装備される  
#多様な感情の受け入れ

RESEARCH THEME

感性社会のなかの信頼と  
“ワタシ”の確立

VISION IDEA (3)  
感性表現でつながる社会の創出

第三話 すべてが溶け合う社会で、自分が自分であるために



発行：日本電気株式会社

- 新事業推進部門
- デジタルテクノロジー開発研究所
- ソートリーダーシップ部

発行月：2022年11月

文筆協力：太田 知也

アートディレクション、デザイン：太田 知也

イラスト、漫画：小指

企画・制作：株式会社ロフトワーク